

福大生のための「遠隔授業を受けるための学習ナビ 2020」

【5月1日更新 Ver.1.2（4月23日発行）】

全国で新型コロナウイルス感染症の影響が拡大しているなか、皆さんはどのように過ごしているでしょうか。きっと、学習や部活動、アルバイトなどの行動が制限され、日々の生活に不自由を感じるなど、快適とは程遠い毎日を送っているものと思われます。

新型コロナウイルス感染症は、大学教育にも大きな影響を与えています。政府から緊急事態宣言が発表され、福岡県においても大学の休業が要請されています。このような状況のなかで、本学では、当初の予定から2週間ほど遅れた4月24日より前期授業を開始します。

授業は、当面、皆さんと教員とが直接顔を合わせない遠隔授業という方法で行われます。この遠隔授業の全学的な実施は、皆さんだけでなく、福岡大学の教員や職員にとっても初めての試みです。そのため、実際に遠隔授業を実施すれば、通信上の不具合など、様々な点で予想ができない問題が生じることもあるでしょう。それでもなお、授業を開始しようと考えたのは、福岡大学は、本学の学生である皆さんに学び続けて欲しいと考えたからです。大学としては、教育を実施することそれ自体が困難となっている状況に直面しながら、皆さんに少しでも多くの学びが得られる環境を整えられるよう挑戦し続けているところです。

この『遠隔授業を受けるための学習ナビ 2020』は、遠隔授業を受けるうえで知っておくべき基本的な事項をまとめたガイドブックです。遠隔授業とは何かに始まり、遠隔授業のタイプ、遠隔授業を受ける注意点や心構えなどが解説されています。皆さんの多くは、遠隔授業という初めての経験に不安を抱えていることと思われます。しかし、本ガイドブックを読むことによって遠隔授業に対する疑問や不安が多少は解消され、遠隔授業における学びがより豊かなものとなれば幸いです。

2020年4月

「遠隔授業を受けるための学習ナビ 2020」編集委員一同

1. 本学習ナビの注意点

本学習ナビを読む前に、以下の注意点をご確認ください。

①本学習ナビは、遠隔授業に関する一般的・基本的な事項を記載しています。

本学習ナビは、遠隔授業の基本的なことを書いています。所属する学部学科、また授業担当教員ごとでも、違う内容が伝えられることや異なる対応が必要なこともあります。学部学科のガイダンスやホームページ、各授業での説明などの情報をもとに適宜判断してってください。

②大学での学習全体に関する内容は、本学習ナビには詳しくは記載していません。

大学での学習全体については「[福大生のための学習ナビ 2020](#)（※リンクは説明に飛びます）」をご覧ください。大学で学習するための基本姿勢に始まり、履修登録について単位のこと、レポート作成方法や試験の受け方など、大学特有の教育システム、学習スキルについて説明しています（福岡大学教育開発支援機構のHPから自由にダウンロードできます）。

③本学習ナビは、今後も随時改訂していく予定です。

本学習ナビは、今回の緊急事態に対応するために急遽作成したものであるため、今後も随時更新していく予定です。右上に表示されている Ver. を確認して、最新版であることを確認してください。また、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況によっては、授業実施に関する大学の方針が変更されることがあり得ます。定期的に、大学のホームページやF Uポータルを確認するようにしましょう。

【更新履歴】

[2020年4月23日] 発行 (Ver.1.0)

[2020年4月24日] 更新 (Ver.1.1) : 主に欠席の取り扱いの文書発表に関わる修正

[2020年5月01日] 更新 (Ver.1.2) : 主に Webex の使用方法に関わる修正

④【教職員の皆さまへ】大学からの発表等をご参照頂きますようお願い致します。

遠隔授業に関して、大学からの発表等をもとに、学生向けの遠隔授業での学びに向けた情報提供として作成しております。遠隔授業に関わる教職員向けの情報については、大学からの発表等をご参照ください。

2. 遠隔授業を受けるための学習ナビの構成

本学習ナビは、目次順に読んでいくことにより、遠隔授業の全体像をつかめる構成となっています。一方で、皆さんの知りたいことに対応して読んでも参考になることと思います。目次については一番下をご覧ください。

遠隔授業全体について

- Q遠隔授業とは何かについて知りたい → p.4
- Q遠隔授業での学習への向き合い方について知りたい → p.5
- Q遠隔授業で気を付けるべき点について知りたい → p.5
- Q遠隔授業での成績評価がどのように行われるのかについて知りたい → p.6
- Q遠隔授業を受けるためのステップについて知りたい → p.8

リアルタイム配信型の遠隔授業について

- Qリアルタイム配信型の遠隔授業について知りたい → p.10
- Qリアルタイム配信型を受ける準備について知りたい → p.10
- Qリアルタイム配信型の参加の心得について知りたい → p.12

オンデマンド型の遠隔授業について

- Qオンデマンド型の遠隔授業について知りたい → p.15
- Qオンデマンド型に取り組むためのポイントについて知りたい → p.15

教材配信型の遠隔授業について

- Q教材配信型の遠隔授業について知りたい → p.17
- Q教材配信型に取り組むためのポイントについて知りたい → p.17

遠隔授業を受けるための学習ナビの目次

- 1. 本学習ナビの注意点 p.2
- 2. 遠隔授業を受けるための学習ナビの構成 p.3
- 3. 遠隔授業とは何かを知っておこう！ p.4
- 4. 遠隔授業を受けるためのステップ！ p.8
- 5. リアルタイム配信型の遠隔授業を受ける！ p.10
- 6. オンデマンド型の遠隔授業を受ける！ p.15
- 7. 教材配信型の遠隔授業を受ける！ p.17
- 8. おわりに p.19
- 9. 参考・引用文献／ウェブサイト p.19

3. 遠隔授業とは何かを知っておこう！

本学の授業は、遠隔授業（3種類）を中心に進めることになっています。ここでは遠隔授業とは何かを説明します。本学の遠隔授業とは、インターネット環境を活用した授業を指しています。遠隔授業は、テレビ電話のようなシステムで同時中継をすることで授業を実施していくというイメージがあるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

まず、授業にはどのようなタイプがあるかについて整理しましょう。通常の授業も含めると、主として次のタイプがあります。

1. 面接授業（※現在行っていません）

学生や教員が教室で対面して講義や実習などを行う通常の授業です。

2. リアルタイム配信型の遠隔授業

Web会議システムを用いたリアルタイムで視聴して学ぶ授業です。

3. オンデマンド型の遠隔授業

授業の記録ビデオや音声が付いたスライド映像などを視聴して学ぶ授業です。

4. 教材配信型の遠隔授業

授業中に課されるものに相当する課題を教材として学ぶ授業です。

本学で遠隔授業と呼んでいるのは、「2」、「3」、「4」の授業です。今後の状況次第では「1」面接授業が中心となる可能性があります。現在は行っていません。

遠隔授業のポイント！

本学の遠隔授業は、これらのタイプの組み合わせで行われます。例えば、同じ科目であっても、授業15回のうちで、10回分はリアルタイム配信型で5回分は教材配信型の授業で行われることもあるでしょう。また、1回の授業90分のうちで、60分はオンデマンド型で30分はリアルタイム配信型の併用で行われることもあるでしょう。どのような組み合わせで行われるかについては、担当教員から事前に知らされますので、十分に確認してから授業に臨みましょう。

いずれの遠隔授業のタイプにおいても、原則登校せず自宅での受講となります。また、皆さんの学習時間（1単位あたり45時間）を確保しようとしている内容であり、「教員—受講生」間及び「受講生—受講生」間の双方向性を確保し、皆さんの学習成果の評価を教員が行えるように、授業が設計されています。通常の教室で行われる対面の面接授業と同様に、課題提出や小テストによる理解度の確認、質疑応答や意見交換は、どの遠隔授業のタイプでも行われます。

遠隔授業での学習への向き合い方

遠隔授業は、従来の教室で学ぶ面接授業とはさまざまな点で違いがありますが、インターネットを介してたくさんの人々と等距離で関わることができるという大きな利点もあります。面接授業の教室には遠近感があり、離れた席に座っている学生たちと接点を持つことは少なくなりがちです。しかし遠隔授業では、同時に多数の学生の意見や声を聞くことができ、そして皆さん自身が彼ら・彼女らに向けて自分の意見を発することもできます。このように遠隔授業では、教室で行われる面接授業よりも、さらに多くの「関係の種」を蒔くことができる可能性があるのです。ぜひこの可能性を活かして下さい。みなさんが今回の遠隔授業で学ぶことを通じて蒔いた「関係の種」が、面接授業が再開されたあかつきに豊かに芽吹き、これまで以上に新しく多様な関係をもたらしてくれることでしょう。本学はワンキャンパスの総合大学です。そこには、遠隔授業で関わったすべての学友たちが、同じキャンパスの中で実際に出会えるという他にはない魅力があります。

一方で、遠隔授業では、直接には話ができる人がいない分、自らコミット (commit) したり、エンゲージ (engage) しようとしないと、様々な知識や能力を身に付けることができないことでしょう (以下の補足参照)。遠隔授業のタイプでは、教材配信型、オンデマンド型、リアルタイム配信型の順に、コミットやエンゲージが必要になります。同様に、コミットやエンゲージが必要なものほど、いつどのように学ぶかを自分なりに計画することが可能です。逆に言うと、自分なりの計画を立てられるかどうかによって、最終的に何を学んだのかについての差が出やすくなるのです。

補足：コミットとエンゲージの言葉の意味

傍観者としてではなく、できるだけ当事者として心理的に近い距離で関わろうとすることを「コミット」、積極的、主体的、能動的に関わろうとすることを「エンゲージ」と言います。

遠隔授業は、さまざまな点で通常の授業とは異なり、皆さんたちにとってはもちろん、これは私たち教員にとっても初めての経験となります。これを乗り越え、よりよい学習環境を築いていくためには、私たち教員と皆さんが協力し、できるだけ前向きに取り組んでいこうという姿勢が重要だと考えています。確かにこのような状況は私たちが望んだものではありません。しかし、このような機会だからこそ学べるものは何か、積極的に考えながらそれぞれの授業に取り組んでいきましょう。

遠隔授業で気を付けるべきポイント

自宅等のインターネット環境や、スマートフォン等のデータ通信契約内容を確認しておきましょう。携帯会社等の制限のある通信回線しか利用できない場合は、教材などのダウン

ロードに時間がかかること、画質や音質が安定しないこと、パケット利用料が高額になる恐れがあること等に十分に注意してください。

加えて、ネットリテラシー（インターネットの利用する際に情報や現象を正しく理解して、適切に判断・利用する能力）やネットセキュリティに関して注意が必要です。特に、遠隔授業では、著作権や肖像権（個人情報）にいつも以上に注意が必要となります。授業で示された映像・写真や配布資料などは、授業に参加する特定の受講生の皆さんのために限定的に配信されているものです。授業の範囲を越えて、例えば Twitter などの SNS で共有したり、無断で再配布したりすることは違法であり、法的責任を問われることとなります。詳細については、FUポータルに掲載されている文書「遠隔授業で配信される動画・画像・資料等の取扱いについて」を確認しておきましょう。

逆に言えば、授業内で皆さんが発言したりすることは守られている環境となります。その環境において、ネットを介してはいますが、その向こうには感情を持った個人がいることを忘れないで下さい。大学生の皆さんには、これまで以上に自分の発言や行為に責任を持つことが求められます。そして、それはネットを介した発言や行為でも同様です。難しいことですが、自分の発言や行為が、それらに触れた顔の見えない誰かがどのように感じるか、常に想像力を働かせ、考えるように心掛けましょう。皆さんの一人一人の心掛けでより良い遠隔授業での環境を作っていきましょう。

遠隔授業では成績評価はどのように行われる？

通常の教室で行われる対面の面接授業と同様に、授業ごとに決められた到達目標への到達度をはかるための課題提出、小テスト、定期試験等によって成績評価が行われます。ただし、定期試験に関しては以下に書いています注意点ががあります。

成績評価は、学部学科ごとのディプロマ・ポリシー（学位授与方針：卒業時に身に付けておくべき能力）に対応して、各授業の担当教員が設定した「到達目標」（シラバスに記載）に基づいてなされます。この点、遠隔授業においても同様で、設定された到達目標について、皆さんがどの程度達成したか評価するために試験や課題が課されます。具体的な成績評価方法は、授業によって異なりますので、授業内での教員からの説明、シラバス、FUポータルの各科目の情報等で、どのように成績評価がなされるかを確認していきましょう。

前期の授業を欠席する場合には、その理由によって、特別な対応が行われる場合があります。詳細については、FUポータルに掲載されている文書「4月24日からの遠隔授業に係る対応について（欠席の取り扱いについて）」に記載されていますので、ここではその概要のみを説明します。

大学としては、新型コロナウイルス感染症への感染や濃厚接触者となった場合及び体調不良（発熱、倦怠感、咳、うつ症状等）、またインターネット環境不調（情報端末やインターネット環境が十分に整わなかった場合や通信速度が極端に遅くなった）により、遠隔授業

を受講できない場合には、欠席扱いとはならず、後日、不利益がないように取り扱う特別な対応が行われます。担当教員の判断の下で、実施可能な代替措置（例えば、課題研究やレポートの提出及び提出期間の延長、講義レジュメの提供など）が講じられます。ただし、大学への連絡が必要です（病状により連絡が難しい場合は事後報告でも構いません）。特別な対応が行われるケースや具体的な連絡手続き方法については、前掲の文書を必ず確認してください。

なお、今後の状況によっては、学期末に行われる定期試験が行えないという場合も想定されます。仮に、定期試験や途中で授業が行えないような状況になった場合、皆さんのそれまでの課題提出や小テストなどの学習成果を用いて成績評価が行われることもあり得ます。そのため、学期末の定期試験で良い点数を取れば良いと考え、定期試験の直前に詰め込むことを予定するのではなく、各回の授業を大切に集中して受講し、与えられた課題に対しては最大限努力をして向き合うようにしていきましょう。

4. 遠隔授業を受けるためのステップ！

自分が受ける授業は、どのようなタイプの遠隔授業なのでしょう。それを知るためには、本学の情報サイトであるFUポータルにログインして、各授業のお知らせを確認する必要があります。これらを含め、ここでは遠隔授業を受ける際のステップについて説明します。

遠隔授業を受けるためのステップとして以下のものがあります。

- ステップ1：FUポータルにログインして、各授業の「新着情報」を確認しよう！
- ステップ2：毎週の授業内容は、FUポータルの各授業の「講義照会」で随時知ろう！
- ステップ3：配布資料や課題提出がある場合には事前に行って授業に臨もう！
- ステップ4：時間割の曜日と時限に、授業に臨もう！（場合によっては異なります）

授業全体の内容を知るには、シラバス（授業計画や授業履修の約束ごと）がありますが、今回の状況においては変更が生じている可能性があります。そのため、事前にFUポータルで講義内容を確認しましょう。FUポータルにログインして、「授業管理(学生)」を押すと、自分の履修している授業科目が一覧となった表形式の表示がされます。その中に、「新着情報」と「講義照会」があります。「新着情報」には、主に担当教員からの授業計画や成績評価方法等の変更についての説明が掲載されます。また、初回の授業においても授業計画や成績評価等の説明がなされますので聞いておきましょう。

次に、各授業の「講義照会」も確認しておきましょう。ここには、主に各週の授業内容や受講生への連絡事項等が記載されます。これはメール（学籍番号@cis.fukuoka-u.ac.jp）として届くこともあるでしょう。リアルタイム配信型の場合には参加するためのミーティング情報が掲載されたり、教材配信型の場合には課題内容が示されたりします。これらは随時更新されていきます。次の授業回の遠隔授業のタイプや内容、事前の配布資料の有無、予復習や課題等についても、授業回ごとに事前に確認していきましょう。

授業によっては、事前に配布資料がFU_box（福岡大学のクラウドストレージ）などWeb上に用意されている場合があります。授業開始前にダウンロードして手元で確認できるようにしておきましょう。必要があれば印刷しておきましょう。プリンタがない場合には、感染防止に対する注意を十分に行ったうえで、コンビニエンスストアで印刷することも可能です（以下の補足参照）。また、発表資料などをアップロードして提出することもあるでしょう（FU_boxは、担当教員と学生間で、オンライン上での資料の共有や課題の提出などで使用されることがあります。使用する場合には担当教員から説明があります）。

リアルタイム配信型の遠隔授業では、基本的には時間割の曜日と時限に行われます。オンデマンド型や教材配信型の場合はその週内で取り組み、レポート課題などの提出日までに提出しておきます。ただし、動画や教材は一定期間しか視聴できないなど、授業や状況によっては教員から他の指示がある場合もあります。

以上、各授業の遠隔授業のタイプや内容、授業計画に関しては、FUポータル各授業の「新着情報」「講義照会」を定期的に確認して、また授業内での教員からの説明を聞いて把握していきましょう。

補足：主要なコンビニエンスストアに設置されている「マルチコピー機」を使った印刷方法について：コンビニでのプリントは、担当教員が印刷するファイルを登録するか、自分でファイルを登録することになります。ファイルの登録の詳細は、コンビニ名とネットプリントで検索してください。システムが「ローソン、ファミリーマート、セイコーマート」と「セブンイレブン」で分かれています。ファイルを登録していれば、コンビニのマルチコピー機で、前者はユーザー番号を入力、後者は文書番号（プリント予約番号）を入力することで印刷することができます。両システムとも、PDF/Word/Excel/PowerPoint のファイルが印刷でき、白黒印刷の場合1枚20円（B5～A3）です。

なお、コンビニエンスストアに行って印刷する際には、感染防止のための予防策を十分に講じることが必要です。人のいない時間に速やかに印刷する、マスクの着用や手洗い、うがいを徹底するなどの感染予防に努めてください。

次からは、遠隔授業の3つのタイプ（リアルタイム配信型、オンデマンド型、教材配信型）について順番に説明していきますので、これらの授業の特徴や心構えをしっかりとって授業に臨みましょう！

5. リアルタイム配信型の遠隔授業を受ける！

リアルタイム配信型の遠隔授業では、Web 会議システムを用いて、リアルタイムに授業を行います。通常の面接授業に近い形式であり、教員の講義を聞くこともあれば、自ら発言や発表をするなどのグループワークをすることもあるでしょう。

福岡大学としては、このような状況の中でも、皆さんにできる限り通常の授業に近い場を提供したいという思いから、リアルタイム配信型の授業を実施できる環境を整備しました。Web 会議システムのアカウントを全教員に配布して、リアルタイム配信型の遠隔授業を行える状況を整えています。一方で、リアルタイム配信型は、皆さんも教員も、ネットワーク環境や使用する機器に左右されてしまうデメリットがあります。特に、学生の皆さんには、ネットワーク通信量の最も大きな授業のタイプとなります。そのため、授業の内容に加えて、学生の皆さんのネットワーク環境や機器の状況に配慮して、遠隔授業の3つのタイプ（リアルタイム配信型、オンデマンド型、教材配信型）の選択は行われる予定です。リアルタイム配信型は必ずしも多くはないと考えられますが、受講する際の準備や注意点等の基本を説明していきますので、確認していきましょう。

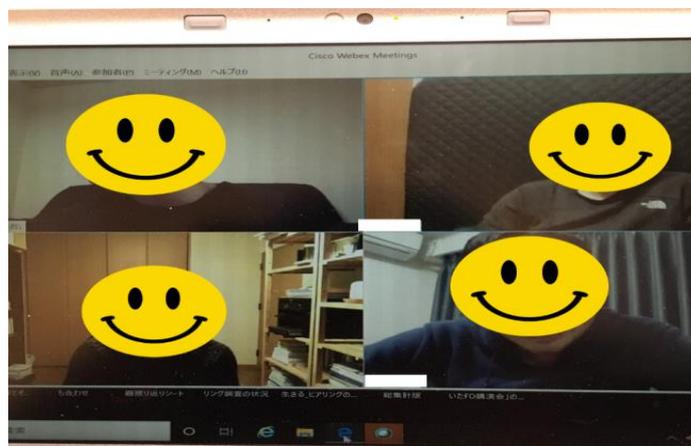


図 リアルタイム配信型の画面イメージ（4名の参加者の場合）

リアルタイム配信型の授業を受けるための準備をしよう！

リアルタイム配信型の遠隔授業において推奨される機器とネットワーク環境の説明をします。ただし、こうした機器や通信環境は、時間的にも供給的にも十分には用意することが難しい場合もあるでしょう。可能な範囲で推奨される準備を行きましょう。

リアルタイム配信型において推奨される機器や環境としては次のものが挙げられます。

- ・インターネットに接続できる機器：PCなど
- ・オーディオ機器：音声出力用のスピーカーや音声入力用のマイク（PC内蔵でも可）
- ・Webカメラ（推奨）：映像を撮影するカメラ（PC内蔵でも可）
- ・通信の制限のないインターネット回線やWi-Fi環境
- ・リアルタイム配信に適した環境

リアルタイム配信型で使用する機器としては、画面が大きいことや課題の作成等もあるため、パソコンが推奨されます。スマートフォンやタブレット端末などインターネットに接続できる機器でも視聴することは可能です。パソコンの場合には、マイクやWebカメラが内蔵されていることもあります。ない場合には用意したほうが良いでしょう。音声は、長時間聞くことも想定されるので、ヘッドセット（イヤホン付きマイク）や会議用スピーカーマイクが推奨されます。

インターネットの通信環境は、高速・大容量の通信環境が推奨されます。リアルタイム配信で動画を受信するなどデータ通信量が多くなります。そのため、光回線やADSLなどの通信量の無制限のプランが推奨されます。携帯会社等の制限のある通信回線しか利用できない場合は、画質や音質が安定しないことやパケット利用料が高額になる恐れがあるので十分に注意してください。自宅等のインターネット環境や、スマートフォン等のデータ通信契約内容を確認しておきましょう。

リアルタイム配信型で使用するWeb会議システムは、福岡大学としてはWebex Meetings（以下、Webex）というシステムを導入しています。授業によってはZoomなどの別のシステムを使用することもあるでしょう。どのWeb会議システムを使用するかは授業担当の教員から授業内やFUポータル内において指示があります。

補足1：一部の携帯会社（[NTTドコモ](#)、[KDDI](#)、[ソフトバンク](#)等（※リンクは各社の説明に飛びます））の通信容量制限等については、期間限定で容量の緩和などの特別なサービスが提供されています。このサービスは、電気通信事業者の教育の重要性への理解、また大学等の遠隔授業における学生の通信環境等の確保のために特別に配慮されたものです。このサービスを利用する際には、これらの趣旨を理解して学習目的に利用しましょう。

補足2：リアルタイム配信型の授業でのWebexへの接続方法の詳細は、福岡大学情報基盤センターの「[遠隔授業システム Webex（学生向け）](#)」（※リンクは情報基盤センターのページに飛びます）をご覧ください。使用する機器（パソコンの場合にWindowsかMacか、あるいはスマートフォンやタブレット）によって接続方法が異なりますので、それぞれ自分が使用する機器にあった学生向けのマニュアルを確認してください。

リアルタイム配信型の参加の心得！

リアルタイム配信型の参加の心得を以下に示します。確認しておきましょう。

1. Webでのコミュニケーションへの配慮をしよう！
2. 可能な限り静かな環境で接続しよう！
3. パソコン等は1台につき1人で使用しよう！（複数人での使用は推奨されません）
4. 画面や音声に集中しすぎずに、軽い運動も適宜しよう！
5. 授業の様子をSNS等にあげない！（著作権や肖像権的にNG）
6. Web会議システムのミーティング情報（番号やパスワード）をSNS等で共有しない！

1. Webでのコミュニケーションへの配慮をしよう！

教員や学生相互で通信状況に差があることも考慮して、相手の状況を想像しながら、遠隔でのコミュニケーションを円滑にするための工夫をしていきましょう。リアルタイム配信型では、教員の講義を聞く時にも、グループワークなど受講生同士での発言をしたり聞いたりする際にも、言葉のやりとり、意思疎通は日常よりも難しく感じることでしょう。それは誰もが感じることです。発言の呼吸が合わなかったり、相手が聞いているか不安になることがあるでしょう。そのような場合には、例えば、話し出す際に相手に聞こえているかを確認すること、手を挙げて発言したいと示したり、うなずいて聞いていることを意思表示するなど、伝わりにくいことを意識してボディーランゲージを上手く活用してみてください。また、目線が合わないことも指摘されることです。これはカメラと画面を同時に見ることができないために生じます。カメラの位置の工夫や発言するときは自分の目線を意識してみてください。以上のようなコミュニケーションの難しさは、慣れていくことで一定程度軽減していけることでしょう。

2. 可能な限り静かな環境で接続しよう！

リアルタイム配信型の受講に適した環境としては、静かな場所が望ましいです。長時間、画面を見つめ教員の話聞くこともあります。自宅など他人に迷惑にならない場所から参加しましょう。また、カメラであなたの映像を送信する場合は背景も含め、他の受講生に見えることとなります。他人が映らないなど背景にも配慮した場所で受講しましょう。家族などと暮らしている場合には、これからWebでの授業であることを事前に伝えておきましょう。

3. パソコン等は1台につき1人で使用しよう！（複数人での使用は推奨されません）

発言や意見交換を行うなど、参加者が一画面ごと均等に表示されることを考慮して授業が構成されることがあります。小テストなどの個別にパソコンの操作を求められることもあります。また、不安なために、受講生同士で集まって受けたい気持ちもわかりますが、コロナ感染症防止のためにも、1人での遠隔授業に慣れていきましょう。

4. 画面や音声に集中しすぎずに、軽い運動も適宜しよう！

慣れるまでは、目や耳などにいつも以上に負担がかかる可能性があります。画面や音声に集中しすぎずに、肩を回すなど、軽い運動やストレッチを適宜していきながら受講しましょう。

5. 授業の様子を SNS 等にあげない、6. Web 会議システムの情報を SNS 等で共有しない!
授業の様子の動画や写真を一部切り取りであっても、SNS などに挙げることや共有することは禁止されています。「遠隔授業で気を付けるべきポイント」で説明したように、授業の範囲を越えて、例えば Twitter などの SNS で共有したり、無断で再配布したりすることは違法であり、法的責任を問われることになります。同様に、Web 会議システムのミーティング情報（ミーティング番号やパスワード）についても、特定の受講者のみに知らせているものです。権利侵害が起きないように十分に気を付けましょう。

なお、授業担当教員が、授業の様子を録画・録音を行うことがあります。基本的には、感染の恐れがある等の正当な理由により欠席した学生向けなどに、学習の機会を保障するためのオンデマンド型の動画教材作成のためです。録画・録音される際には、教員からの説明と周知がなされ、映ることを拒否する権利、録画されたものは再配布されない形式等の配慮がなされます。

授業中に接続のトラブルが起きた場合には

リアルタイム配信型では、時間割の時限に実施されますが、接続トラブルなどが生じる場合があることを心に留めて、早めに準備して、柔軟に構えておきましょう。授業の進行状況等によっては、自習等に切り替わることもあるでしょう。基本的には、つながらない場合にどうすればよいかの指示が担当教員からあるでしょう。わからない場合には、事前に担当教員にどうすればよいかを確認するようにしておきましょう。

さまざまに接続を試みてみたにも関わらず、授業の最初から接続できなかった場合にはどうすればよいでしょうか。担当教員に連絡できる手段（メールや Web 掲示版等）が用意されている場合は、接続トラブルで参加できないことを連絡することが良いでしょう。単に欠席ではないことを伝えておきましょう。また、授業参加中に、通信状況が不安定になり、映像が乱れたり、音声途切れたりすることもあるでしょう。原因は様々に考えられますが、場所を少し変えるだけでも改善することもあります。加えて、映像は容量が重いので、音声のみに切り替えることも考えられます。少し時間をおくことで参加できることもあります。途切れた箇所については、教員へのコメントや意見交換の際に伝えておきましょう。トラブルに見舞われた際は、過度に不安がらずに担当教員に相談しましょう。

なお、インターネット環境不調（情報端末やインターネット環境が十分に整わなかった場合や通信速度が極端に遅くなった）により、遠隔授業を受講できない場合には、欠席扱いとはならず、後日、不利益がないように取り扱う特別な対応が行われます。担当教員の判断の

下で、実施可能な代替措置（例えば、課題研究やレポートの提出及び提出期間の延長、講義レジュメの提供など）が講じられます。ただし、大学への連絡が必要です。欠席の取り扱いとその連絡手続きについて、FUポータルに掲示されている文書「4月24日からの遠隔授業に係る対応について（欠席の取り扱いについて）」を、必ず確認してください。

6. オンデマンド型の遠隔授業を受ける！

オンデマンド型では、次の3つの内容で行います。①講義動画や音声付きスライド動画などのデジタルメディアコンテンツを視聴して、一定時間学習します。②その学習成果を、小テストへの解答やレポート等の提出で示します。その後、③教員からの設問解答や添削などの指導、受講生同士での意見交換を行う授業になります。これらの具体的な内容は、F Uポータルの提示や授業内で担当教員から指示されます。皆さんの専攻する学問分野によって内容や行う作業は異なることになります。より具体的な例はこの後紹介します。

オンデマンド型のデジタルメディアコンテンツとして、例えば次のようなものがあります。

- ・ 音声のみ
- ・ スライド+音声（教員の解説する声等）
- ・ スライド+音声+動画（教員の話す様子等）
- ・ 動画（講義動画等）

オンデマンド型に取り組むための主なポイント！

大学生としての自律的な学習をしていきましょう。学習計画を立て、デジタルメディアコンテンツを視聴して、教員や受講生からのフィードバックで学びを深めていきましょう。

1. デジタルメディアコンテンツの特徴を理解して学ぼう！

オンデマンド型の遠隔授業は、自律的に自己管理して取り組む人にはメリットが多いとされます。リアルタイム配信型とは異なり、記録されたコンテンツであるので、提出期限を考慮して都合の良い時間に、動画等を視聴して取り組むことができます。自分のペースで進めることができ、苦手な科目は時間をかけて視聴することができます。分からないところは何度も見返すことができ、途中で席を立つ際も一時停止で動画等を止めることもできるでしょう。一方で、その場では質問等はできないので、教員へのコメントや意見交換の際に伝えるようにしましょう。

2. 課題への取り組み方、学習した成果の提示方法を確認しよう！

デジタルメディアコンテンツの狙い、留意点、必要な視点・観点等の取り組み方について、よく確認して取り組みましょう。わからない点があれば担当教員に確認しましょう。取り組んだ結果として、小テストに解答するのか、レポートを提出するのかなど、学習成果をどのように示すのかについても確認して、課題に取り組みましょう。

3. 学習時間を見積り、提出期限を考慮して、いつ取り組むのかを決めよう！

授業1回がオンデマンド型である場合には、オンデマンド型の3つの流れ（動画の視聴、小テストへ解答、意見交換等の流れ）全体で、授業1回分（90分程度）の時間が必要になることが想定されています。例えば、動画視聴に30分くらい、レポート作成

に60分くらいかかりそう、など見積りましょう。提出期限や他の授業とのバランスなども考慮して、いつ取り組むのかを決めましょう。

4. 教員からの指導や意見交換をして、自分の学習を振り返ろう！

動画視聴等への取り組み結果に対して、教員から、設問回答、添削指導、質疑応答、助言等の指導が行われますので、これらのフィードバックから学びを深めましょう。また、受講生同士での意見交換では、他の学生の解答や考え方などに触れて、多角的な視点を努めて意識しながら俯瞰して学習の振り返りに活かしましょう。

オンデマンド型の具体的な例としては次のようなものが挙げられますので、参考にしてください。

【オンデマンド型の例1】動画の視聴と設問へ解答

「指定の Web サイト（FU-box など）にアップロードされている動画を視聴し、内容に関する設問に答えなさい。解答は指定の Web サイトに書き込み、送信しなさい。動画の視聴と設問への解答作成までで1回分の授業と同程度の学習を想定しています。また、提出物は平常点5点分として評価に加えます。」

【オンデマンド型の例2】英語科目等でTED Edのオンラインレッスン作成リソースを利用

「指定された URL から TED のビデオを最低2回視聴しなさい。最初は字幕無し、次は英語字幕で見る。その後、ビデオに関する問題に解答しなさい。最後に、Discuss セクションに提示された問題について、あなたの考えを書きなさい。ビデオの視聴、問題の解答、意見の記述を含めて1回分の授業と同程度の学習を想定しています。オンライン上の学習履歴をもとに、5点を最高点として平常点として評価に加えます。」

7. 教材配信型の遠隔授業を受ける！

教材配信型では、次の3つの内容で行います。①授業中に課すものに相当する教材が出され（課題が課され）、皆さんが一定時間学習します。②その学習成果を、小テストへの解答やレポート等の提出で示します。その後、③教員からの設問解答や添削などの指導、受講生同士での意見交換を行う授業になります。これらの具体的な内容は、FUポータルの提示や授業内で担当教員から指示されます。

授業中に課されるものに相当する教材（課題）の例としては、

- ・文献を読むこと
- ・関連資料の収集・整理、データ分析等の調査
- ・読解、関連資料の収集・整理、データ分析等の複合な学習

などがあります。皆さんの専攻する学問分野によって課題の内容や行う作業は異なります。より具体的な例はこの後紹介します。

教材配信型に取り組むための主なポイント！

大学生としての自律的な学習をしていきましょう。課題を理解して、学習計画を立て、課題に取り組み、教員や受講生からのフィードバックで学びを深めていきましょう。

1. 自ら学ぶことへのコミットやエンゲージして、集中して学ぶ環境を整えよう！

教材配信型は、遠隔授業のタイプの中で、自ら学ぶことへのコミットやエンゲージが最も必要になります（傍観者としてではなく、できるだけ当事者的に、積極的に関わろうとすることを「コミット」や「エンゲージ」と言います）。学習のペースや時間を自律的にコントロールすることを強く意識して、集中して学べる環境を整えましょう。これらのコミットとエンゲージの差によって、学習成果に差が生じます。

2. 課題への取り組み方、学習した成果の提示方法を確認しよう！

教材や課題の狙い、留意点、必要な視点・観点等の課題への取り組み方について、よく確認して取り組みましょう。わからない点があれば担当教員に確認しましょう。取り組んだ結果として、小テストに解答するのか、レポートを提出するのかなど、学習成果をどのように示すのかについても確認して、課題に取り組みましょう。

3. 学習時間を見積り、提出期限を考慮して、いつ取り組むのかを決めよう！

授業1回が教材配信型である場合には、教材配信型の3つの流れ（課題に取り組み、小テストへ解答して、意見交換等）全体で、授業1回分（90分程度）の時間が必要になることが想定されています。例えば、読解に時間が30分くらい、レポート作成に30分くらいかかりそうなど見積りましょう。提出期限や他の授業とのバランスなども考慮して、いつ取り組むのかを決めましょう。

4. 教員からの指導や意見交換をして、自分の学習を振り返ろう！

課題への取り組み結果に対して、教員から、設問回答、添削指導、質疑応答、助言等の指導が行われますので、これらのフィードバックから学びを深めましょう。また、受講生同士での意見交換では、他の学生の解答や考え方などに触れて、多角的な視点を努めて意識しながら俯瞰して学習の振り返りに活かしましょう。

教材配信型の具体的な例としては、次のようなものが挙げられますので、参考にしてください。

【教材配信型の例1】「テキストの第2章第2節を熟読し、前回の講義で学んだ背景を踏まえて、該当箇所の議論の論点、著者の主張を簡潔にまとめて、次回の講義開始前までに所定の方法で提出しなさい。なお、テキストの読み込みと提出物の作成を含めて1回分の授業と同程度の学習を想定しています。また、提出物は平常点5点分として評価に加えます。」

【教材配信型の例2】英語科目等の例「Unit 14についてテキストの本文を読み、その内容の要約を英語で作成しなさい。その後、テキストの問題に解答すること。要約およびテキストの問題の解答はレポートとしてまとめ（Microsoft Wordなどを用いて作成）、次回の授業までに所定の方法で提出すること。テキストの読み込みと要約および解答の作成を含めて1回分の授業と同程度の学習を想定しています。また提出物は平常点5点分として評価に加えます。」

【教材配信型の例3】「第4回の授業内容を復習した後、その発展的な内容の演習問題（FUBOXやMoodle等での配布）に取り組み、Moodleの第5回授業の欄に掲載している問題を解き、解答欄に数値および選択肢の番号を記入してMoodle上で送信（提出）しなさい。全問が正解となればこの回の講義を終えたとみなし、平常点として評価に加えます。なお、次回以降の授業において類似の問題の解法を解説しますので、その際に解答方法などを自分で復習できるように、解答に至るまでのプロセスを自分のノートに記録しておくこと。解答をノートに書き、最終的な解答を得るまでの時間も含めて1回分の授業と同程度の学習を想定しています。また、提出物は平常点10点分として評価に加えます。」（※Moodleはe-Learningシステムです。）

【教材配信型の例4】「前回の講義で扱ったテーマが現実の社会においてどのように問題とされているかについて、発展的な調査を通じてレポートにまとめなさい。具体的には、授業では取り扱わなかった書籍やインターネットの情報、新聞記事などを各自で調べなさい。レポートはMicrosoft Wordを用いて1000字程度で作成した後、電子データをWebサイトから送信（提出）しなさい。文献調査とレポートの作成を含め、1回分の授業と同程度の学習を想定しています。また、レポート提出によって平常点を与えることはありませんが、レポートの内容は試験範囲の一部ですのでしっかり取り組んでください。」

8. おわりに

本学習ナビでは、遠隔授業に関する基本的な内容を説明しました。これを読んで遠隔授業に関する疑問や不安は少しでも解消したでしょうか。実際に遠隔授業を受けてみなければわからないことがたくさんあり、それこそが学びとなることでしょう。遠隔授業の楽しさや難しさなど皆さんが感じたことをぜひ教えてください。本学習ナビが、新しい学びへ飛び出していく皆さんの背中を少しでも押せる内容になっていることを願っています。

遠隔授業の全学的な実施は、我々を含め、専門家といえども予想できない状況です。遠隔授業が始まっていないなかで、率直に言って、本学習ナビの作成も試行錯誤のなかにあります。自然発生的に有志が集まり、皆さんの状況に想いを馳せて、本学習ナビを作成しました。この厳しくも未知の状況において、皆さんも、能動的に、想像力を働かせ、知的な好奇心を持ち、時に悩み楽しみ、豊かな学びへとつなげていって欲しいと考えています。その際、福岡大学の教員、職員、学友がきっと大きな助けとなることでしょう。そして今回の経験を経た皆さん一人ひとりが、誰かの助けとなってくれることを切に期待しています。それでは、福岡大学の遠隔授業でお会いしましょう！

「遠隔授業を受けるための学習ナビ 2020」編集委員一同

9. 参考・引用文献／ウェブサイト

福大生のための学習ナビ 2020 編集委員会（教育開発支援機構）（2020）福大生のための学習ナビ

京都大学高等教育研究開発推進センター Teaching online (<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/> 2020年4月10日閲覧)

共通教育センター（2020）面接授業の代替となる課題等による学習とその事例案について（面接授業や補講の実施が難しい場合の代替措置）

文部科学省（2020）新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等における学事日程等の検討状況について

岡本清美（2020）コンピニネットプリントでのプリント資料印刷：手順書

大学からのお知らせと情報を確認しよう（遠隔授業に関する情報の収集と活用）

ここまで読み不明な点があった場合等には、福岡大学のHPやFUポータルで大学からのお知らせを改めて確認して情報を得ましょう。遠隔授業に関する情報の収集と活用をしてください。以下は、関連する一部のお知らせや情報を載せますが、最新の情報は直接大学のHPや情報基盤センターのHP、FUポータルにて確認してください。

[2020年4月28日発表] [遠隔授業の実施に伴うインターネット環境整備に係る経済的支援について](#)

[2020年4月24日発表] [【学生の皆さんへ】前期授業の開始にあたって](#)

[2020年4月10日発表] [遠隔授業を用いた授業の実施について](#)

(※リンクは福岡大学のHPに飛びます。)

- ・大学メール (@cisメール)・・・[@cis \(Office365 Outlook\) の利用方法](#)
- ・FU-box についての詳細・・・[FU_box 学生向け利用案内](#)
- ・Webex についての詳細・・・[遠隔授業システム Webex \(学生向け\)](#)
- ・Moodle についての詳細・・・[e-Learning システム \(Moodle\)](#)

(※リンクは福岡大学情報基盤センターのHPに飛びます。学生向けのページです。)

編集・発行

「遠隔授業を受けるための学習ナビ2020」編集委員会（教育開発支援機構）

【お問い合わせ先】

教育開発支援機構事務課

E-mail : kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp